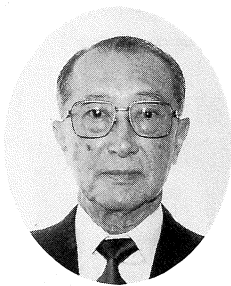


# 年頭の御挨拶

辰巳会会長 鈴木治雄



明けましておめでとうございます。

一九九五年は年初より大事件が発生し、年中色々な事件があり最悪の年でした。

特に神戸市を中心とした大地震には、阪神間に住み地震とは全く縁が無いと信じていた我々には晴天の霹靂で、どの様に対処すべきか数ヶ月間頭を悩ませました。

とりわけ地震発生当日（一月十七日）が辰巳会の新年例会開催日であったことを思い出すと今でもゾツといたします。建物の崩壊、交通機関の寸断、

そして多数の死傷者を出した大惨事に新年例会は流会になりましたが、早暁の地震発生と集合時間が正午だったことで、会員の皆様に何事も無く、不幸中の幸いであったと喜んでおります。

この地震のため五月に行う予定であった全国大会が延期になりましたが、十月二十五日に無事開催することができ、六十四名が来会し大盛会でした。

現役の方が段々少なくなって来ましたが、まだまだ元気な会員がおられますので、辰巳会はこのままの形で続けて行くつもりです。

年頭の挨拶が報告事項の様に申し訳ありませんが、会は益々隆盛に運営しております。大会には是非ご来会下さる様にお願ひして年頭の挨拶いたします。

## 全国大会報告

平成六年五月十七日(火)於…京都三条 料亭花斗

今大会は二年振りに京都開催となった。歩行行程のない会場がよいと相談の結果、京都らしい優雅な設営となった。

会場は三条大橋東入りの『花斗』、十一時三十分のご案内であり乍ら、早い方は十一時前に参られた方もあった。

楽しい歓談の声が打水も清々しい静かな玄関に響く、予定の時間には全員大広間に集合、南は四国、九州、京阪神、名古屋、東京と全国から六十名の出席があった。

藤田幹事の司会により会式が始まる。開会の辞は横田幹事長が元気よく再会の慶びのことばをのべられ鈴木会長挨拶となる。昨年の大い、金子直吉翁五十年祭の際の謝辞と会員皆様のお元氣な姿に接したよるこび、又来年も多くの方のご出席を期待する旨のことばに満場の拍手があり終了された。

次に松下幹事による恒例の会務報告となった。

先ず好天に恵まれ、予定通り全員出席された感謝のことばあり、次いで本年度の米寿、喜寿の該当者名の披露があった。

米寿 菊田順藏氏 喜寿 鈴木治雄氏  
中屋伝太郎氏 横田周作氏  
松木三四郎氏

以上五名の方々の益々の御長寿御多幸を祈念し、全員拍手をもってお祝詞申し上げた。

又一年間の計報（別掲）を発表、右物故者について去る五月九日、祥竜寺に会長以下幹事一同参集、謹んで法要を営み過去帳に記載、合祀を奉った旨報告があった。因に本年迄の物故者は一一四九名であります。

右物故者皆様のご冥福を祈念して、全員一分間の黙禱を捧げ終了、以上で会務報告は終了、待望の宴会となった。

乾杯は高知から遙々参加され、本年米寿を迎えられた、おめでたい松木三四郎氏のお元氣な発声をお願いして。

料理は独特の風味を作り出した懐石料理、起りは鎌倉時代とか、禅僧の食事の一種、懐に入れる石↓身体を温める意味とか、久し振りの歓談にアルコールも美味しく、いよいよ宴盛り上り、時のたつのも忘れがち、併し次の『鴨川おどり』観覧の予定あり、藤田幹事立ち閉会をのべ万雷の拍手のうち宴を終わった。

直ちに三々五々、三条大橋を渡り先斗町へ向う。五分ばかりで歌舞練場に到着、指定席券を受け、二階棧敷にあがる。舞台から両棧敷の天井には赤提灯がぎっしり、華麗な緞帳と別世界をかもし出す。

二時二〇分、鐘、太鼓、三味線、琴、拍子木に合せていよいよ幕あけ、先斗町の綺麗どころと舞妓のみせるあでやかな『鴨川おどり』目を見張るばかり、久し振りの優雅と嬌艶の雰囲気、一時間ばかりの命の洗濯ノ華やかなときも早や三時前、名残り惜しい会合も自然流れ解散となり、自由に北へ西へ南へと、別れの声を残し消えて行かれた。又のお元氣な再会を祈りつつ全国大会は無事終了、めでたしめでたしでした。

平成六年 全国大会 式次第

平成六年五月十七日(火)／於…京都三条 料亭花斗

- 一、開会の辞 横田 幹事長
- 一、会長挨拶 鈴木 会長
- 一、会務報告 松下 幹事

宴

- 一、乾杯
  - 一、スピーチ
  - 一、閉会の辞 藤田 幹事
- 以上

大会終了後『鴨川おどり』観覧の為、先斗町へ移動致します。  
観覧終了後 自然流会とさせて頂きます。

平成六年 全国大会出席者名簿 (順不同・敬称略)

平成六年五月十七日(火)／於…京都三条 料亭花斗

今村 三郎	田中 卓次	山本 秀子
小原 多喜子	君 枝	河野 芳子
小原 秀吉	高木 きぬ	吉田 春江
釜崎 とし子	高木 邦子	山室 雅子
大塚 融	石川 幹恵	鈴木 治雄
奥田 さき	立花 實	横田 周作
楓 雅之	建部 清也	高畑 薫幸
金子 孝蔵	和子	高畑 喜代
ソメエ	澄子	藤田 健作
北野 浅美	柘山 寿郎	松 下 重男
北尾 素子	千佳子	森 妙子
山本 富美子	柘植 五百刀	小野 晶子
木下 清三郎	陽三	田代 よし子
窪田 圭子	坂東 みどり	阿部 孫治
吉岡 紀子	上條 妙子	柳 文子
小松 豊秀	西内 富美子	金子 裕
柴田 健	間室 太郎	計 六十名
末次 英一	真玉 修一	
末次 英一	町田 赳夫	
助野 敦子	松木 三四郎	
	鷺尾 千鶴子	

全国大会報告

平成七年十月二十五日(水)／於…ホテルオークラ神戸『星雲の間』  
未曾有の大惨事『兵庫県南部大地震』により延期になっていた「平成七年度辰巳会全国大会」が、秋晴の十月二十五日(水曜日)開催されました。

地震の発生した一月十七日は、辰巳会新年例会の当日でした。甚大な被害の中、皆様の無事を祈るのが精一杯のことでした。もちろん新年例会、五月の全国大会、本年秋季例会が行えるような状態ではなく、見送らざるを得ませんでした。そういう中に、この日を迎えることが出来、会長初め幹事一同感慨一入で皆様のご参会をお待ちしておりました。

定刻前から、全国から会員が来会され、震災のお見舞いの言葉とともに無事を喜び合う声が交わされていました。

会場の『ホテルオークラ神戸』三十四階の窓からは、震災を受けた神戸の山と港と街が展望でき、改めて被害の大きさに驚きと悲しみを覚えました。が、秋麗の空の下、復興の様子も見え、明るく、心強い気持ちになりました。

定刻、参加者六十三名全員が席に着き、横田幹事長の開会の辞、鈴木会長の御挨拶、松下幹事の会務報告と、事務局金子さんの司会で会は進行了しました。幹事長も会長も共に、震災のお見舞いと再会の喜びを語られました。

次いで、(株)神戸製鋼所の岩石巽氏が演壇に立たれ、『神鋼の震災と復興』の特別講演をされました。

神戸製鋼所の被災は、マスコミを通じ多くの人が知るところでしたが、実際に体験され、復興推進本部理事として復興に当られる氏の話に、会場は水を打ったようにしんとまりました。その被害の大きさもさることながら、一丸となって復興に当られる神鋼社員の方々の愛社精神に、全員感動を大きくしました。そして一日も早い復興を願い、大きな拍手が起りました。

講演の余韻を残しながらも、北海道から駆けつけられた加地彦太郎氏の発声で乾杯、会は宴へと移りました。氏の「九十になっても病気をしたことはありません。一寸前に風邪を引きましたが三日で治りました」の言葉に会場は割れんばかりの拍手でした。小樽の西村慎一氏のスピーチに耳を傾けながら、どのテーブルも楽しく盛り上がりました。

楽しい事は、時間がすぐに経ちます。閉会の時間となり、松木三四郎氏の音頭で、全員の益々の健勝を祈念し万歳三唱し、藤田幹事の閉会の辞で、和やかなうちに大会は無事終了しました。

今大会では、辰巳会顕彰碑(神戸市灘区祥龍寺内)の震災被害による復旧工事に伴うご寄付を会場にお願いし、皆様から快く多くの寄付金を頂戴しました。改めて厚く御礼申し上げます。

また今大会を最後に、事務局担当として辰巳会に貢献された金子裕さんが、太陽鉦工(株)福岡鉦業所に栄転され、事務局を去られることになりました。長い間のご苦勞に感謝し、御礼申し上げます。

平成七年 全国大会式次第  
 平成七年十月二十五日(水) / 於…ホテルオークラ神戸『星雲の間』

一、開会の辞	横田 幹事長
一、会長挨拶	鈴木 会長
一、会務報告	松下 幹事
一、特別公演	(株)神戸製鋼所 震災復興推進本部 岩 石 巽様
一、乾杯	加地 彦太郎
一、スピーチ	松木 三四郎
一、万歳三唱	藤田 幹事
一、閉会の辞	以上

宴

池田 泰雄	窪田 圭子	河野 芳子
井上 好正	吉岡 紀子	吉田 春江
今村 三郎	三軒 保	山室 雅子
大谷 一二	立花 實	鷲尾 正彦
小原 多喜子	高畑 ちよ	岩石 巽
釜崎 とし子	神保 カヨ	名波 正晴
松下 義子	田代 よしこ	鈴木 治雄
奥田 さき	竹崎 一郎	横田 周作
落合 力	高畑 明	よしこ
加地 彦太郎	田辺 満寿子	高畑 薫幸
金子 孝藏	柘山 寿郎	安東 喜代
金子 貞子	西川 千佳子	安東 浄
金子 貞子	西川 明子	藤田 健作
東條 佳子	坂東 みどり	松下 重男
北尾 素子	武藤 秋	楠瀬 正明
山本 富美子	間野 玉枝	森好子
北野 浅美	岩崎 由佐子	小野 晶子
ユミノ	松木 三四郎	金子 裕
木下清三郎	松原 和雄	金野 和夫
北野 浩央	三木 正太郎	川崎 雅子
木村 毅	山本 秀子	計 六十三名

阪神大震災と辰巳会

横田 周作

昨平成七年一月十七日未明に起った阪神大震災では、死者六千三百人に達し、四十万戸に及ぶ全半壊家屋と云う大災害となりました。当日は辰巳会本部の新年会が正午から東明閣で開催される事となって居り、当然会は流れたのですが、会場の東明閣のあった明海ビルも全壊で、もし会合の時間帯に地震が起って居たらどんな事になって居たかと想像するとぞっと致します。

阪神地区は辰巳会々員及びその御家族が多くお住いの場所ですので、その安否が気づかれたのですが、幸い死傷の報はなく安心致しました。御住いの家屋には多数の全半壊がありました模様で、何かと御不自由御苦労が多い事と存じ、心から御見舞申し上げます。一日も早く震災前の生活を再建されるようお祈り申し上げる次第です。尚鈴木会長の御宅も全壊でありましたが、既に再築されました。

祥龍寺境内の辰巳会の顕彰碑等も一部倒れたり動いたりしたのですが、会員や関係企業の御支援を得て昨春秋には復旧を終わりました。

鈴木関係の企業で震災の被害を受けましたのは太陽鋳工、神戸製鋼所、日本精化、鈴木薄荷、日塩、ニチリンの六社ですが、何と云っても最も大きな被害のありましたのは神戸製鋼所でありました。その被害と復旧のお話は、昨年の辰巳会総会で同社震災復興推進本部の岩石巽氏にお伺いしたのですが、全社一丸となって高炉の復旧にあたられ、四月には火入の運びとなり、その他の設備工場等も次々と操業を開始され、一千億円を超える被害にもかかわらず、平成七年度の決算では

平成七年 全国大会出席者名簿 (順不同・敬称略)  
 平成七年十月二十五日(水) / 於…ホテルオークラ神戸『星雲の間』

大きな黒字を計上する見込みと承り敬服する次第です。太陽鋳工は本社のビルは無事でありましたが、やはり内部の備品等は相当な被害があり、壁なども損傷があったのですが、夏頃迄には修復を完了しました由です。苅藻島の埋立地は護岸が一部崩れ相当な被害との事です。日本精化は本工場の建物は無事でしたが、内部の設備などに被害があり、停電などにより一時生産が止まりましたが、早急に復旧し、製品の納入先に迷惑を掛けずに済んだ由です。鈴木薄荷も工場の建物は無事でしたが、内部の設備には多少の被害があり、附属の木造の建物や塀などが倒壊しました由です。日塩はポートアイランドと兵庫に倉庫があるのですが、双方とも内部や保管荷物の荷崩れなどの被害があり、ポートアイランドでは液状化現象などにより地盤の沈下が発生し損害が生じました。又神戸港が約半年間使用不能となった為、荷物の出入庫が減少し、営業上の損失があった由です。ニチリンは工場が姫路に在った為、生産面の被害はなかったのですが、神戸本社は入居して居た三宮の江戸町ビルが全壊で、事務室も斜に傾き、書類等の搬出も危険で、備品等はそのまま残して取壊されました。一時本社業務は工場内で行って居ましたが、同じ三宮に第一勧銀のビルの空室が借りられ、八月より神戸本社が復旧しました。ただ阪神間の道路が一時使用不能となり、又中国縦貫道も一部通行止めとなり、関東方面の納入先への毎日の出荷のため和田山の方の一般道を経由する事となり、輸送に苦労した由です。又購入材料部品等も同じく輸送に苦労した由です。幸に納入先に迷惑を掛ける事なく切り抜けたとの事です。以上が辰巳会に関係ある各企業の状況ですが、それぞれ被害はあったものの、これを克服して、生産活動を再開又は継続出来た事は不幸中の幸と存じます。

# 辰巳 巴より 会 り

## 本部新年例会報告

平成六年 辰巳会  
新年例会出席者名簿  
平成六年一月二十七日(木)  
於・東明閣(五十音順・敬称略)

阿部 孫治植 五百刀	井上 好正 美紀子	奥田 さき福 有一	小野 晶子 須藤 欽吾	大谷 淳子 藤田 健作	金子 貞子 柳田 辰巳	東條 佳子 山脇 悦子	東條 雅之 森下 重男	楓村 雅之 森田 好子	木村 素毅 横田 周作	北尾 素子 金子 よし子	山本 富美子 金子 裕	鈴木 清三郎 特別ゲスト 共同通信神戸支局 記者	高木 治雄 特別ゲスト 朝日新聞神戸支局 記者	高畑 慶子 特別ゲスト 朝日新聞神戸支局 記者	高畑 幸子 特別ゲスト 朝日新聞神戸支局 記者	喜代子	計 三十六名
------------	-----------	-----------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	-------------	-----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	-----	--------

## 本部 秋季例会

平成六年十月二十四日(月)  
集合 メリケンパーク  
中突堤乗船口  
参加者 二十六名

当日は晴天の青空、平静の青海原、最適の気候でした。正午、定刻となり、参会の挨拶もそこそこに岸壁に横たわる「ルミナス神戸2」に、参加者二十六名が乗船。赤絨緞の船室に金色の飾り窓と、船内は想像以上に立派で、驚いているとサイレンが鳴り響き出港となりました。

淡路島を背景に飛び交す鷗の舞に、思わず「淡路島通う千鳥の鳴く声に……」と口ずさんでしまふ程でした。身近かな明石海峡ですが、こうして周遊してみると、知らなかった魅力が一杯に詰まっています。

景色に見とれているうちに、テーブルにはフランス料理が並び、昔話に花を咲かせながら充分に賞



森駿郎の三名の方が喜寿を(大正七年生)、それぞれでたくお迎えされましたことをご披露申し上げます。(リスト参照)ご長寿をお慶びしました。

つづいて加地彦太郎様(北海道から上京)のご挨拶と発声で乾盃をして宴会に入りました。久方振りに皆様のお顔が会いましたので歓談の花が咲き、スエヒロの美味しい料理にビールとお酒が入り話はずみしました。楽しいお喋りが

味いたしました。  
帰港は午後三時、再会を誓いつつ散会となりました。  
(ダイナミック・ベイクルーズ「明石海峡周遊」の名に恥じない素晴らしい一刻の船旅でした。  
(藤田 健作)

平成六年 辰巳会  
秋季例会出席者名簿  
平成六年十月二十四日(月)  
ダイナミック・ベイ・クルージング  
(五十音順・敬称略)

大谷 淳子 高畑 幸子	奥田 さき横田 周作	金子 孝藏 松重 男	木下 清三郎 藤田 健作	高畑 ちよ 柳田 辰巳	坂東 みどり 森好子	武藤 秋 弘成	山本 秀子 小野 晶子	河野 芳子 西村 鏡次郎	鷺尾 千鶴子 金子 裕	名波 正晴	鈴木 治雄	計 二十六名
-------------	------------	------------	--------------	-------------	------------	---------	-------------	--------------	-------------	-------	-------	--------

続きましたが、デザートが出た頃を見計って、次はビデオ放映を見ることができました。

それは、昨年(一九九三年、平成五年)五月二十日(木)に金子直吉翁の五十年祭祀が神戸の長田神社「参集殿」で執り行なわれたのに併せて辰巳会全国大会が行なわれました。その時の様子がビデオに収録されましたのを放映して皆様に小一時間程見て頂きました。

会員の皆様の中には昔のことが思

辰巳会東京支部新年例会出席者  
平成六年一月二十七日(木)  
於・築地スエヒロ別館  
(五十音順・敬称略)

荒木 正雄 建部 清也	移川 中田 辺 満寿子	池谷 政雄 西川 明子	今村 三郎 西村 鏡次郎	請川 耿益 子洋 一	加藤 福雄 安東 一 浄	加地 彦太郎 芦原 有 一	近藤 鳩三 長橋 忠 男	田代 よし子	立花 實	計 二十名
-------------	-------------	-------------	--------------	------------	--------------	---------------	--------------	--------	------	-------

い出されたらしく領いておられました。

次いで池谷政雄様に締括りの閉会の挨拶をして頂きました。そのご挨拶の中に安東浄様の年賀状に書かれてあった「健康十則」のご披露があり、その十則のコピーを池谷様から会員に下され、健康留意に良い導きを教わりました(左記)。

健康十則

- 少肉多菜 少怒多笑
- 少塩多酢 少衣多浴
- 少糖多果 少言多行
- 少食多嚼 少慾多施
- 少煩多眠 少車多歩

以上で午後二時頃に新年会もどどこおりなくお開きとなり、帰りにみな皆様に沢山なお土産の入った手提げ袋をお渡ししました。これらのお土産をいただいた各社様に対し誌上をかりて厚く御礼申し上げます。有難うございました。  
(A A記)

## 東京支部 新年例会

平成六年一月二十七日(木)  
於・築地スエヒロ別館

平成六年新年例会を一月二十七日(木)正午より築地のスエヒロ別館で開催しました。今回は椅子テーブルの洋式で座り心地がとてもよろしかったです。開会前に一同二十名揃って記念撮影のあと、芦原幹事の司会で会を始めました。

植田支部長、日商岩井(株)社長の西尾哲様のお二人は所要のため会を欠席されましたので開会及び新年の挨拶を幹事の西村鏡次郎様にお願いました。

西村幹事から開会と新年のご挨拶に続いて平成五年の物故者十二名に対し(リスト参照)全員で黙禱を捧げました。

次いで米寿、喜寿の方々は(敬称略)、柳川菊江、中尾伝太郎、鳥敬次郎、菊田順蔵、松木三四郎の五名の方が米寿を(明治四十年生)、そして横田周作、鈴木治雄、

## 東京支部 春季例会

平成六年五月十二日(木)  
榛名湖周辺めぐり  
(バス旅行)

昼から晴れの天気予報を信じて、昨夜来の小雨が残るなか参加者十七名、東京駅丸の内明治屋前に集合して、予定通り午前八時三十分、小雨のなかの一段と緑を増して美しい皇居の森を眺めながらスタート。

今回は初めての「東京バス観光社」の後部座席サロン式バス、都内もさしたる混雑もなく、予定通り九時三十分練馬ICより関越自動車道に入り順調に快走、途中高坂SAで小休止した頃はまだ小雨だったから、そこを過ぎて暫く走ったあたりから一気に空が晴れて、五月の陽気燦々の快晴に一変、いきましたがたまでの天気が嘘のように、天気予報大あたり。

ベテランガイドさんの説明を聞きながら左右の車窓から眺める両

毛の山々が実に美しい。新芽の黄緑から深緑まで濃淡あやなす中に、点々と誇らしげに咲く山桜のピンクが目を楽しませてくれる。雨があがって陽光に映える新緑は湯上りの美人のあでやかさにも似て特に見事なのか、ガイドさんの感嘆をこめた説明の連発にウン、ウン。



十一時少し前、渋川伊香保ICを降り上越線渋川駅脇を通り過ぎ、伊香保保に向う。徳富蘆花の「不如帰」で脚光を浴びた古い歴史のある伊香保温泉街を走り抜けてから、やがて幾重にもカーブをきりながらバスはきれいに舗装された登り道をぐんぐん登る。赤く咲き乱れるレンゲツツジが西側の樹々や原の緑に一際映えて、これまたその見事さ、美しさに眼を奪われる。平原に出ると間もなく前方に榛名湖、陽光に跳ね返して湖面をキラキラ輝かせている。標高一、一七〇メートル。湖畔から脇道に入り一〇分程で榛名町歴史民族資料館に着く。入口ガラスドアのところに「日・祭日の翌日、火曜日定休」の木札、今日は休館日でもないのにドアをいくら押しても開かず、中に係の人の気配もない。傍の土産物屋のオバサンに聞くと「月初めの連休の代りの臨時休館でしょう」とのこと、いやはや、こじんまりとした建物を眺めて「参観したことにしましょう」とバスは折返し湖畔へ。「はるな亭」二階広間で昼食、七〇八〇〇人は収容出来るという大広間に客は我等十七名のみ。イワナの炭火塩焼、

イワナの刺身、ワカサギのフライ、名産のコンニャクそば等珍しい料理に皆満足。客が我々だけのせい、あるじのサービスがよい。「わたしは農家だから米（コシヒカリ）はたっぷりある、味噌汁の味噌も自家製三年もの、どんどんおかわりを」と言いながら揚げたてのワカサギフライを器にとっさり盛って来たり、味噌田楽の追加サービス。

腹ごしらえが出来たところで暫し土産物を買ったり、湖畔散策したりしたのち、湖畔で一同記念撮影をしてから、少し行ったところにある湖畔駅よりロープウェイに乗ること三分、円錐形の美しい姿をした榛名富士山頂一、三九一メートルに着く。そこで三〇分休憩、周囲の烏帽子岳、鬚櫛岳や山頂から眺める裾野の榛名高原、遙か下の方にひろがる伊香保の街も素晴らしく身も心もリフレッシュ。山頂駅からなだらかながら一直線にのびた階段道を登りつめた小高いところに榛名山神社がある。子

宝安産の神様とか、片道一〇分位かかりそう、そこまではやめておこうと下界の景色を満喫しながら休んでいる間に、大関、関脇、前頭上位クラスの大先輩数人軽々と往復、お元氣お元氣。

午後二時三〇分、榛名富士をあとに帰路につく。途中舞茸センターに立寄る。猿の腰掛け科のきこので万病、特にガンの予防に特効ありとか、係の人から栽培、育成、効能等の説明をうけ、会からのお土産として用意していただいたこの舞茸と、この近くの名物「水沢うどん」をいただく。あとは一路東京へ、前橋ICから関越自動車道にのり、大した渋滞もなく予定通り午後六時東京駅丸ビル前に帰着。また秋の旅行での再会を楽しみに解散した。

全国的に有名な伊香保温泉を控え、これだけの風光景観をもつ、しかも絶好のシーズンにも拘らずウィークデーとはいえ観光客もまばら、PR不足なのか、誘客努力が足りないのか賑わいがなく意外

な感じでした。(Y・T)

辰巳会東京支部春季例会出席者  
平成六年五月十二日(休)

榛名湖周遊めぐり  
(五十音順・敬称略)

田代ヨシ子	建部清也	國廣五郎	請川耿男	植田三男	今村三郎	安東浄	芦原有一
以上十七名	伴益子	西村鏡次郎	長橋忠男	同 伴	山寿郎	田辺満寿子	花実

東京支部 新年例会

平成七年一月二十七日(金)  
於・築地スエヒロ

快晴の青空の下、寒中の真白き富士山が、くつきりと映えて美しく見える今日の東京地方。恒例の東京支部新年例会が、此処お馴染みの築地スエヒロで催されました。皆さんお元氣で会場ロビーで、新年のご挨拶を交歓され、又、先

達ての阪神大震災のお話でもちきりのようでした。出席者総員二十七名、正午過ぎに、司会は芦原幹事さんより今日のスケジュールのご案内があり、先ず平成六年の物故会員のご冥福をお祈りし全員で黙禱を捧げました。又、本年めでたく秋元鷹男様が白寿を、木下清三郎様、北野浅美様、松本善一様様が米寿を、浅田幸吉様、近藤鳩三様が喜寿を迎えられる事を、皆様にご披露申し上げて御長寿をお慶びしました。

続いて幹事の西村鏡次郎さんより開会の挨拶があり、その中でも私もちと辰巳会の平均年齢以上になりましたと、ユーモアたっぷりにおっしゃられ皆さんを笑わせになりましたが、芦屋市にある別荘がこの度の震災で、ご損害があったとのことのお話もあり、震災が一段と身近に感じられました。引き続き長老の国広五郎様の発声で、この度の阪神大震災で亡くなられた方々の御冥福をお祈りし一分間の黙禱を捧げ、次いで新年



の弥栄を寿ぐ乾盃となり宴会に移りました。スエヒロ心尽くしの柔らかい美味なステーキと、まろやかな福井の銘酒・濱小町、それに爽やかなビールとが相俟って、素敵な雰囲気皆さん益々重ねられ大歓談となりました。

間もなくして大変お多忙中のところをご出席下さいました、日商岩井(株)社長の西尾哲様からスピーチを戴き、日商岩井の社員さん方々の被災状況と、鈴木商店の伝

統一のある神戸市の被災状況についてご説明があり、一同感銘しました。

宴中半の頃合を見て、園の暖簾をバックに一同記念撮影。着席して、今回特別来賓の日本弁護士連合会、会長土屋公献様から特別公演を拝聴する。その前に幹事の安東浄さんから土屋様のミニ紹介があり、今から五十一一年前の昭和十八年十二月学徒出陣時、旅順海軍予備学生教育部、第三分隊八班に配属された際の班長をしてもらった戦友で、半世紀以上も親しくしておられたとか。なかなか、豊富な温みのある付き合いが何える。講演は、

『今世相を憂う』

(一) 現在の風潮は人間的でない。  
(二) 人間形成の中で美学の衰退。  
(三) 昔の若者には目標があったが、現在の若者には目標がなく、余りにも利己主義であり虚無的である。

この様な社会の日本では、外国人が見ても大したものでは無いと

思っている。

そこで意識革命をして、島国的な物の考え方よりグローバルに地球全体の事を考え、そして自己本位な利己的な行為により環境破壊、引いては地球破壊に繋がる様な事をしないで、日本人が一致団結をしてまっしぐら。地球全体、人類全部を救う事を至上命令とした目的意識を以って事に処し、更にオランダのハンス少年の如く、自己の犠牲により全部を生かそうとする様な、大道徳教育が必要である。の要旨で約三十分亘り有意義なお話をして戴き、将来次の世代を担う青少年の教育が、如何に大切であるかを皆さん痛感され、熱心に傾聴しておられました。これでお話を終り、時間のご都合で土屋様は中座されました。その後再び皆さんの楽しい歓談が続きましたが、そろそろ予定の時間が参りましたので、芦原幹事さんより、今日の例会に日本発條、帝人、日商岩井の各社より過分の御寄付を戴いたとの報告とお礼をされ、皆

様これからもお元気で再会を致しましょう。との閉会の挨拶で午後二時過ぎにお開きとなりました。皆さん沢山なお土産の袋を手に入れました。本当に有難うございました。以上

新春に神戸偲びて辰巳会

(記 I・S) 三郎

辰巳会東京支部新年例会出席者

平成七年一月二十七日(金)

於・築地スエヒロ (五十音順・敬称略)

芦原	有	一	立	花	實
荒木	正	雄	建	部	清
安東	東	中	田	辺	満
移川	川	同	伴	土	屋
池谷	政	雄	西	尾	公
池田	宗	吉	西	川	明
今村	三	郎	西	村	鏡
植田	三	男	益	子	洋
植川	三	男	益	子	洋
請川	五	郎	鉄	谷	秘
国廣	五	郎	鉄	谷	秘
近藤	鳩	三	子	計	二
田代	よし	子	計	二	十六

けの三拍子の調和を楽しみました。

十二時四十五分頃に船はぐるりと向きを変え、竹芝への帰路をとりました。

帰路の左舷から見える景色を道連れに、加地彦太郎様から健康保持についての解り易い経験談のお話を聞き、良い勉強になりました。そして船は羽田空港、東京港野鳥公園、大井埠頭等が次から次へと現われるのを見ながら、再びレインボーブリッジを通り抜けて、佃島周辺の高層ビルが立ち並ぶ大都市の象徴を前方に眺めて竹芝棧橋に到着。

乗船記念にヴァンテアン号の写真入りテレフォニカードを辰巳会からお土産に頂きました。

十二時の正午に出港して午後一時三十分帰港の、楽しい九十分亘る歓談と美食の船の行楽でした。

次回も元気に再会を約束して船を降り、お開きと致しました。

(一九九五年六月十一日A・A記)

東京支部 秋季例会

平成七年十一月二日(木)

椿山荘 庭園めぐり

清露黄花『天高く馬肥ゆる秋』といえは運動会の季節である。子供心の楽しさを思い出させる。今日は東京支部の秋の例会日である。例年なれば気分をかえ、新鮮な空気と緑を求めて郊外へバスを走

東京支部 春季例会

平成七年六月八日(木)

東京湾クルージングと 船内でフランス料理

今回はいつものバス旅行にかえて『レストラン・シップ・ヴァンテアン号』で東京湾を船で周遊しながら、左舷の個室(ルーム・サファイア)でフランス料理を楽しみ歓談のひとつときを過ごす爽やかな企画でした。

JR浜松町駅から歩いて十分位の竹芝棧橋に十一時三十分迄に現地集合、直ちに乗船しました。(この船は総屯数一、七七一屯全長六一四m 全幅十三mの豪華船)

参加者十九名着席、個室内で記念写真を撮りました。

植田支部長殿は都合で欠席されましたので、西村鏡次郎幹事殿よりご丁寧な挨拶がありました。そして船は予定通りに十二時出港、一時間三十分の周遊に出航し



らすのであるが、最近皆様のご高齢もあって遠出はとりやめ、都内での名所旧跡の見学鑑賞に変更される。

今回は都内目白にある椿山荘の庭園、史跡を散策することになった。集合は椿山荘本館ロビーに十一時となっている。三、三に集る中神戸本部より久方振りに松下幹事が参加され、大変賑やかそうになった。全員そろったところで案内嬢の丹念な説明をうけ、山河の

庭園を散策、史跡の前では足を休め鑑賞す。

ここ椿山荘は明治の元勳山県有朋公爵の所有命名によるもので、築庭に力を注ぎ、約二万坪の起伏豊かな地形を巧みに生かし、現在の名園に造り上げたとか。当時明治天皇を始め、政財界の第一人者たちがしばしば訪れ重要会議が開かれたと伝えられている。その後藤田平太郎男爵が譲り受け、三重塔を始め歴史をしのばせる文化財の数々を随所に配し、名実ともに日本を代表するガーデンレストランとなる。又歴史的にも美術的にも由緒ある数多くの史跡が点在している。中でも最古の樹木『シイ』は樹齢五〇〇年、高さ二〇m、根周り四・五m、御神木といわれ天高くそびえている。一巡したところで本日のメイン、離れ家『残草』に入り疲れた足を休める。正午頃より懇親の宴席につく。植田支部長諸君欠席のため、池谷幹事よりねんごろなご挨拶がある。そのあと遠路函館より参加された加



地彦太郎さんより、力一杯の乾盃があった。

椿山荘特別和風石焼バーベキュー料理である。サービスマンの自慢話によれば「この石」は富士の火山石を念入りに特殊研磨したものだそうです。気分よく般若湯が入るにつれ、満足な笑顔で声がまし大変賑やかになる。さわまりない愉快さの風情である。中途安東幹事より、本年一月十七日阪神大震災のお話を聞く。その際神戸六甲祥龍寺境内に在る、鈴木よね刀自、金子直吉翁、柳田富士松翁の顕彰碑並びに辰巳会供養五輪の塔の転倒等の被害報告があると同時に、これの復旧費の募金のお願いがあった。皆さんの心よい拍手賛同を戴いて有難く感謝した次第厚くお礼申し上げる。尚今回の例会に当り日商岩井株式会社、辰巳会鈴木治雄会長より過分のご芳志の披露があった。時間も終りに近づいたので、好色健康顔で記念写真を撮り、来年の新年例会には全員元気で再会しようと名残おしく

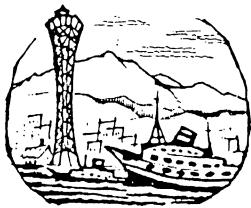
散会した。今日は本当に楽しかったでしょうか。有難うございました。

### 辰巳会東京支部秋季例会出席者

平成七年十一月二日(木)

椿山荘 庭園めぐり  
(五十音順・敬称略)

芦原	有一	立花	實
安東	浄建	部清	也
今村	三郎	同伴	
池谷	政雄	長橋	忠男
請川	政雄	西川	明子
加地	彦太郎	(神戸本部)	
国広	五郎	松下	重男
田代	ヨシ子	以上	十四名



とか無事に過ぎていただいております。命日の頃は高知へ墓まいりに行く事に致して居ります。

### 戸谷太通三

もと太陽産業羽幌磁業所(のち羽幌炭磁鉄道)築別炭磁の太陽小中学校(鉄筋コンクリート三階建)をそのまま利用した緑の村、町営「みどり荘」の宿泊施設に、去る七月中旬偶然一泊して参りました。五四年ぶりの訪問で大変感慨深く、当時は現地までの鉄道建設で、神戸本社から時々出張の担当重役金子三次郎様や、小樽の松井元様、松岡俊一様、現地の町田穀光様、古賀六郎様、原田直吉様、樺太大泊の島内義治様など、次々とお懐しく思い出した次第です。なお同所の一階は事務室と大食堂、二階の一教室は羽幌炭磁鉄道時代の史料室として写真や社旗や大きな石炭塊を初め、色々な資料が展示してありました。校舎玄関には今も「太陽小中学校」の看板があがっています。

### 中屋伝太郎

先般は米寿の銀盃を会長様より頂きまして、感謝感激で拝顔の上御礼申し上げ度く考えましたが、足の不自由の為、今回の全国大会にも出席出来ず、申し訳なく思います。会長様に宣敷御伝言賜り度く御願ひ申し上げます。

### 青柳 節子

さる一月十七日の朝も暢気に神戸でやすんで居りましたが、突然の大震災で、みるみる広がる火事とTVのテロップの医療職を求めているとの事に、居ても立ってもおられず、三日目とにかく市役所へかけつけました。ベストとはとても言えませんでした。ボランティアの一員としてささやかなお手伝いをさせて頂けた事を神様に感謝しています。

### 越智 栄

神戸大震災に被災、一月十九日に東京の息子越智福夫宅に参り、

### 辰巳会会員便り

#### 坂東みどり

住居は無事でしたが被害の最も大きかった東灘区に居りまして地震の物凄さを何ヶ月も毎日見えました。はじめは身体が無傷であることだけで御互い喜び合っていました。日が経つにつれ深刻になってゆく問題をかかえた人達の話しを日々見聞きするにつれ、やりきれない気持ちになります。全国大会で多くの方々にお目にかかり色々御話を伺うことが出来ますのを楽しみに致しております。

#### 小原多喜子

今年の夏の暑さはなかなか厳しかったですが、毎日元気で庭の木や花や畑の手入れをしています。又十一月名古屋芸術センターでの書道展に出品のため、一生懸命頑張つて書いております。今年十一月十五日で私も満八十歳になります。

未だそのまま滞在して居ります。神戸東灘区本山中町の住居は未だ使用不可能のままになって居ります。会長様、御皆様に宣敷。

#### 堀内 照代

夫堀内富之助は平成三年十月心不全にて死去致しました。生前の御友誼御厚情感謝致して居ります。内閣総理大臣より日本国天皇は堀田富之助を正五位に叙し勲五等旭日章を授与するにつき、平成三年十月十八日皇居に於て受領するよとの証状を頂きました。有難く存じました。

#### 原稿募集

内容 随想 短歌 俳句 詩

写真 鈴木往時の思い出 近況などを

必ず原稿用紙に縦書で

四百字詰五枚程度

締切 平成八年八月末日

送先 神戸市中央区磯辺通一丁目一ノ三九

太陽鉱工株式会社内

「たつみ」編集部宛

す。足の歩ける間にあちらこちらと旅行を楽しんでもおります。

#### 鷺尾 正彦

阪神大震災により自宅が全壊し左記の住所に来ております。来年の末には神戸に戻れると思います。皆様御自愛下さいませよう念じております。

奈良県生駒郡斑鳩町竜田南

五二八二二六

#### 伊藤 守二

何時もお世話頂き感謝して居ります。小生は昭和十二年大成商事に入社、昭和二十三年に退社しました。現在七十三歳。小樽に牧野さん、札幌に戸谷さんが健在のみで、当時の方々はまだ殆んどいなくなり残念に思つて居ります。

#### 金子 園花

夫甚蔵死去の節は、皆様どうも有難う存じました。おかげ様で何

